



アクアティック・パーク歴史地区には、散歩道、ガーデン、ケーブルカー・ターンアラウンド、1939年竣工の「ストリームライン・モダン」スタイルのバスハウス・ビルがある。

サンフランシスコ国立海洋歴史パークでは、サンフランシスコの航海に関連する過去を目で見て、耳で聞いて、肌で感じることができます。そして海で生活していた人たちがどのように暮らしていたかを学ぶことができます。南米のケーブホーンを17回も回った横帆艦装船、バルクルーサ号の木造の甲板から、何か月もの航海で船員が待避した窮屈な船室に身がかがめて入ってみてください。沿岸スクナー船、C.A.セイヤー号のカーブした船倉を歩いてみると、洗いたての魚が塩と階層になって天井まで積み上げられています。

ハイド・ストリート・ピアに沿って、パークのスタッフとボランティアが、

ロープの修理、金具のニス塗装、原動力である蒸気エンジンの手入れを行っています。パークレンジャーはさまざまなプログラムを実施しており、バルクルーサ号のマストを支えるリギングの説明をするため高い場所まで登っていくことさえあります。また、「エイジ・オブ・セイル」環境リビング・プログラムでは、歴史的船舶に児童を宿泊させています。小型ボートの作業場では、職人らが蒸気で柔らかくした厚板を成形したり曲げたりして、歴史的船舶の修理やレプリカ制作に携わります。

ビジターセンターでは、展示や体験活動を通してゴールドラッシュ、難破船、航海中の通信などについて学



ビジターセンターの展示や物品は西海岸の船乗りについて物語る。

ぶことができます。インタラクティブな展示ではニューヨークとサンフランシスコ間の航路が紹介されています。また、ファラロン諸島の灯台に設置された巨大なレンズからは西海岸の航海史を知ることができます。「ストリームライン・モダン」スタイルで設計されたアクアティックパーク・バスハウスには、1930年代の連邦美術プロジェクトの壁画があります。正面の石の彫刻はアフリカ系米国人アーティスト、サージェント・ジョンソンによって制作されました。

海洋の歴史をさらに詳しく知りたい方は、ランドマーク・ビルディングEを訪れてみてください。物品、書類、船舶の設計図、写真、映像、書籍、定期刊行物、口述による歴史などを視聴できます。



ハイド・ストリート・ピアに停泊した歴史的船舶。左から反時計回りにコリーカ号、バルクルーサ号、エッフルトン・ホール号、C.A.セイヤー号。

サンフランシスコと海
米国先住民がサンフランシスコ湾でカヌーを使った生活を送っているのと同じ頃、ヨーロッパの探検家たちは海岸線の地図を作成していました。1776年、スペイン人が現在のサンフランシスコにあたる場所に定住しました。ほどなくして、アザラシやラッコの毛皮を求めて多くの船がやって来るようになりました。1820年代には、捕鯨者が来たほか、ボストンの商船がカリフォルニア・カウハウドの取引を始めました。

1849年、シエラネバダのふもとで金が見つかったため、世界中から人々が押し寄せました。その年、750隻の船舶がサンフランシスコに到着しました。富を求める人々の中にはアメリカ製のしゃれたクリッパー船で

来る人もいましたが、ほとんどの人たちは、何とか水上に浮かぶという程度のもので航海しました。浅瀬まで来て、自らの船舶を置き捨てていくこともよくありました(そのような船の残骸は現在のサンフランシスコ金融街の地下に埋まったままとなっています)。「船と棧橋と潮汐の街である」とは、チリのジャーナリスト、ベンジャミン・ピクーニャが1852年に書いた言葉です。「浜から離れて停泊した手すり付きの大型船は、住居、店舗、レストランの役目をなした」と語っています。

ゴールドラッシュは、世界中から商人、労働者、職人をもたらしました。1870年代までには、バルクルーサ号のようなヨーロッパの大型帆船



ハイド・ストリート・ピアで、バルクルーサ号、その他の船舶に乗船して、船乗りの生活を体験。

が、急成長するカリフォルニアの穀物取引に引き付けられてやって来ました。また、C.A.セイヤー号のようなスクナーの船団が、ワシントン州のピュージェット湾からダグラスファー(アメリカ松)を積んで到着しました。また、アルマ号のように底が平らなスカウ・スクナー船は、農耕具のすき、種子、ミシン、布地、石炭、石油などを積み、カリフォルニアのセントラル・バレーまで川を上って行きました。帰路では、これらの船は、長距離輸送に向けた麻袋に詰められた硬く白い小麦を選びました。サンフランシスコの波止場では、このような小麦の入った麻袋

が、ヨーロッパに航行する船に手作業で積み込まれました。穀物取引が衰え、鉄道が製材所まで到達するようになると、船の多くは置き捨てられたり、解体されたりしました。幸運な船は改装されて、他の目的に使用されました。バルクルーサ号とC.A.セイヤー号は1800年末から1900年初めにアラスカの漁場に移されました。1914年にパナマ運河が開通すると、アメリカの両海岸の間を行き来する蒸気船の交通量が爆発的に増加しました。また、第一次大戦と第二次大戦では、軍事の需要を満たすため西海岸に造船所が設立されました。



歴史的エンジン・プレート。センチナル号の修復された船首像。

一時期、サンフランシスコの波止場地区では、すぐれた帆船、沿岸旅客船、軍用船、地元だけで利用される仕事用の船など、まばゆいばかりの船舶の数々がひしめき合いました。これらの船は次々と時代遅れになっていきましたが、それでもなお、その美しさと、それが物語る歴史は大切にされています。1988年、米議会はサンフランシスコ国立海洋歴史パークを開設し、アメリカの海洋の過去が保護・保存されることになりました。



ハイド・ストリート・ピアに停泊した全装備の帆船、バルクルーサ号。ミュニシパル・ピア(市の埠頭)から見たアクアティック・パーク・ラグーン

PHOTOGRAPHS NPS / TIM CAMPBELL AND STEVE DANFORD

ハイド・ストリート・ピアの歴史的船舶

ハイド・ストリート・ピア (ハイド通り埠頭) は、1922年、サンフランシスコとサウスリート間の行き来する自動車フェリーのために建造されたものです。フェリーの路線は、ゴールドゲート・ブリッジが1937年に開通するまでは、高速道路101号線の一部と考えられていました。

今日、この埠頭、そしてそこに停泊する数々の歴史的船舶は、一般公開されています。アルマ号、バルクルーサ号、ユリーカ号、ハーキュリーズ号、C.A.セイヤー号の5隻は米国歴史建造物の指定を受けています。また、埠頭にはさまざまな海洋関係の建造物と展示があります。ごゆっくりご覧下さい。

アルマ号 今も海上で実際に利用されているサンフランシスコ・ベイ最後のスカウ・スクーナー船アルマ号は、このパークからの使節のような存在で、湾各地の港町で歓迎されています。このような平底船が、かつてデルタ地帯の農耕コミュニティとサンフランシスコの間を行き来し、干し草、穀物、肥料など、かさの高い貨物を運んでいました。

バルクルーサ号 この船のタラップを登っていくとそこは19世紀です。この横帆艦装船はスコットランドで建造され、カリフォルニアの小麦をヨーロッパまで運搬するためのものでした。ケープホーンを回る危険な船旅で、船員は何カ月もこの船に

乗って暮らしました。船首楼にある船員の寝台と、船尾の船長室を比較してみてください。このパークの他の船舶と同様に、バルクルーサ号は、同級の船舶がつぶされてしまった後でも何らかの目的で使われ続けたため、このように存続することができました。

C.A.セイヤー号 このスクーナーは、太平洋岸を帆走した何百隻という船舶の代表的なものです。当時そのデッキには、ビュージェット湾の港で8人の船員によって、20世紀初頭カリフォルニアで使われた原材料であるダグラスファー (アメリカ松) が積み上げられました。後にセイヤー号は、サケやタラを捕獲する小型ボートや漁師をアラスカに運搬しました。

エップルトン・ホール号 英国から来たこの頑丈なタグボートは、1969年、自力で大西洋を横断しました。“エッピー”という愛称を持ち、サンフランシスコ湾の汽船交通の初期を思い出させます。

ユリーカ号 当初は汽車を乗せてサンフランシスコ湾を渡るために建造されたものでしたが、1922年の改築時から船客と自動車の運搬に利用されるようになりました。下甲板に展示されたクラシックな自動車やトラックもぜひご覧ください。

ハーキュリーズ号 巨大な丸太のいかだを引っぱりながら、海岸に沿ってのんびり航行し、船尾から魚を釣り上げてディナ

ーにする様子を想像してみてください。この船はとて力強く、大きな船舶を沖までけん引したり、サンフランシスコ湾を渡って貨車を押ししたり、さらにパナマ運河を構築する巨大な水門の構造物を引っ張ったりもしました。

小型船 パーク内のポート作業場では、ファルカ船、モントレー船、ヨットなど、サンフランシスコ湾での仕事や娯楽に利用された、しばしば無名であり日常的な船を修理しています。この作業場ではまた、一般の方々を対象にクラスが催されることがあります。

図書館とコレクション



左上：サケを捕獲するためにスター・オブ・アラスカ号に乗船した漁師たち、1920年代ごろ。右上：パーク内のリサーチ図書館。下：蒸気船のパフレット、1880年代。



物品、スクラップブック、船乗りの工芸品、船上の機械類 ―― ここに保管されたすべてのものが、それを製作・利用した人たちの個人的な物語を伝えます。ビジターセンターの「コレクション・ディスカバリー・ルーム」では、舟歌を鑑賞したり、パーク内に停泊している木材運搬スクーナー、C.A.セイヤー号による1906年の航海の歴史についての解説を聴くことができます。何千点という数の書籍、写真、文書が保管されたこの海洋歴史図書館は、さらに詳しく学びたい方にとって、西海岸の海洋の歴史を知る際の最初の重要な訪問地となることでしょう。

PHOTOGRAPHS: NPS / TIM CAMPBELL AND STEVE DANFORD UNLESS OTHERWISE CREDITED.

見学のプランニング

サンフランシスコ国立海洋歴史パークは、フィッシャーマンズ・ワーフの西にあります。同パークへは公共交通機関がご利用になれます。電話415-673-MUNIまたはウェブサイトwww.sfmuni.comをご覧ください。近辺に有料駐車場がございます。毎日一般公開していますが、ビジターセンターと埠頭はサンクスギビング・デー (感謝祭)、12月25日、1月1日に限り休業となっております。

ビジターセンター
歴史的な缶工場の倉庫であり、アルゴノート・ホテルが入ったレンガ造りの建物にあるビジターセンターでは、皆様の見学に役立つ情報を用意しています。展示品は波止場や海で働いた人々の物語を伝えます。午前9:30時～午後5時開館。夏期には開館時間を延長しています。入場無料。電話415-447-5000。

ハイド・ストリート・ピア
ジェファーソン通りとハイド通りの角

にあるハイド・ストリート・ピアでは、歴史的な蒸気船や帆船のほか、海洋関連の展示や実演などをご覧ください。バルクルーサ号の甲板の下に行くと、この横帆艦装船が運搬した商業的物品について学んでください。タグボートのハーキュリーズ号では、初期のエンジンを聞くことができます。埠頭への入場は無料ですが、乗船には入場料が必要です。

アクアティック・パーク・バスハウス・ビル
数年にわたる修復工事のため閉館中。

アクアティック・パーク歴史建造物地区
ガーデンや波止場に沿って、またはユニシバル・ピアに向かって歩いてみてください。ケーブルカーがターンテーブルで回転する様子や都会のビーチなどを見て楽しむことができます。サンフランシスコ湾の船や鳥に目を向けてみましょう。ラグーンで泳いでいる人も見るすることができます。

USSパンパニート
45番埠頭に停泊中。サンフランシスコ国立海洋パーク協会が修復し、メンテナンスや管理を担当するこの第二次大戦の潜水艦は、太平洋で長距離巡航を行いました。毎日公開中。有料。

詳細については下記まで San Francisco Maritime National Historical Park Building E, Fort Mason Center San Francisco, CA 94123 415-447-5000 www.nps.gov/safr

ビジターセンターの展示：右・ファラロン諸島の灯台、および下・細工を施したクジラの歯。



Printed Spring 2008. Printed on recycled paper. Japanese version.



アルマ号：スカウ・スクーナー；59フィート。1891年、サンフランシスコにて建造。
バルクルーサ号：横帆艦装船；256フィート。1886年、スコットランドのグラスゴーにて建造。



C.A.セイヤー号：3本マストのスクーナー；156フィート。1895年、カリフォルニア州フェアヘブンにて建造。



エップルトン・ホール号：鋼鉄製タグボート；100.5フィート。1914年、英国、サウスシールドにて建造。



ユリーカ号：外輪フェリー；299.5フィート。当初1890年にカリフォルニア州ティボロンにてユキア号という名称で建造。1922年、ユリーカ号として改装。



ハーキュリーズ号：蒸気動力のタグボート；139フィート。1907年、ニュージャージー州カムデンにて建造。



ハイド・ストリート・ピアの東側に停泊した小型の船。



バルクルーサ号に乗船した児童たち。パークレンジャーがあらゆる年齢のビジターを対象に解説プログラムを実施。

